



Silva

2025年8月めぐりの森A-27植樹地 猛暑の長期化と局地的豪雨による夏ごもりの様子



2025年7月中旬まで全木点検を行っていた第28回植樹祭の対象地であるA-27は、わずか1ヶ月と数週間の間、異常気象の影響による降水量ゼロ%と猛暑の長期化によりダメージを受けた直後の局地的豪雨により、乾燥していた地が滑り、壊滅的な被害を受けました。



理事である中村博士(理学)と代表理事が現地をパトロールしたところ、冬ごもりに近いイメージで苗木が光合成を諦めて、夏ごもりしており、完全に枯死した訳ではないものが混在することが判明しました。



植樹した苗木の半数が茶色く枯れた様に見える状況下で、その苗木の更に半数は、『夏ごもり』をしており、根のみで生きている状態でした。写真：2025年9月～10月



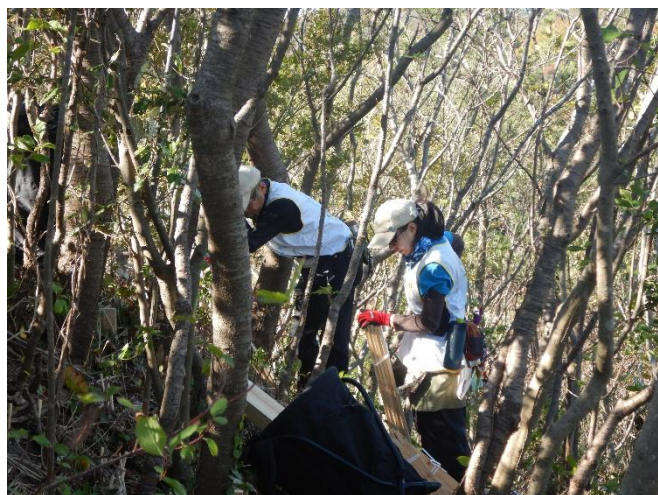
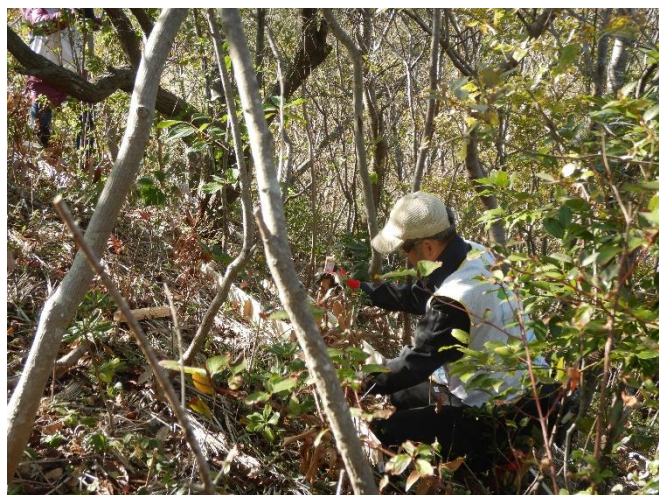
2025年8月めぐりの森A-27植樹地 異常気象の影響を受けた対象地のメンテ ナンス計画



2025年9月～12月まで、ワラのマルチングや土留め施工などで対象地をメンテナンス中。マンパワーが足りないため、第30回湘南国際村めぐりの森植樹祭時にA-27を補植対象地として、1000～1500本の補植を計画しました。



既存の土留めに加え、資材を100万円かけて購入し、40～50幅で小刻みな土留め施工を実施中。ただ、950㎡もあるため、作業は年内で完了できず持ち越しとなっている状況。



来春の補植の際は、A-27を最優先にワラをマルチングし、第30回植樹地は、刈草をマルチングすることで資材不足を回避する予定ですがベストとは、云えず、更なる回復案を検討中。

写真：2025年11月～12月